
ミニ物語～かごめかごめ～

凧夜 流歌

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ミニ物語「かごめかごめ」

【Nコード】

N9067M

【作者名】

風夜 流歌

【あらすじ】

童謡「かごめかごめ」その歌詞には深い意味が込められていた・・・。

かごめかごめ
籠の中の鳥は
いついつ出やる
夜明けの晩に
鶴と亀が滑った
後ろの正面だあれ

「かごめかごめ？ああ、やったね。教室とかでみんなが集まってさ。懐かしいね。・・・それがどうかしたん？」

千夏は私の横で教科書をめくりながら答えた。

場所は学校の教室。後5分も過ぎれば朝のホームルームが始まる。

「うん、かごめかごめだけじゃなくて他の童謡とかも、意味が込められてるのが多いやろ？かごめかごめのは知らなかったからさ、調べてみたんよ」

「ふーん。・・・で？どんなやつたん？」

「うんそれがね。・・・流産しちゃった話なんだって・・・。かわいそうだよね・・・」

「流産？なんでそうなるん？」

意味がわからん、と千夏は教科書を閉じてうーんと考え込んだ。

「歌詞の初めから解説するよ。まずは『かごめかごめ』これは子供の名前か、子供の例えだよ。次に『籠の中の鳥』これはお腹の中の赤ちゃん。『いついつ出やる』はいつ出てくるかな？っていう親の気持ちだね。次は『夜明けの晩に鶴と亀が滑った』これは夜明けに近い夜中。親がこけたんじゃないかってさ。それで流産。お腹の中

の子供小さかったやね……。んで最後の『後ろの正面』はなくなつた子供が後ろから親二人を見守ってるんじゃないかな？『だあれ？』って聞いているし、多分そうなんだよ」

「なるほどねえ……。そりゃあ大事おおごとやねえ。……つかどこで調べたん。そんなんかなかないやろ？」

納得したという顔になった千夏はまた出てきた新たな疑問に私の顔を見やつた。

「ああ、それがね。先生に聞いたんよ。……ほら、今月おめでたつてわかつたつて喜んでた松永先生」

「そつかあ。松永先生物知りやもんねえ」

松永先生は私たちの担任で来月あたりにお産のため育児休暇を取る予定の女の先生だ。

初の子供で早めに休暇を取ることになり、クラスのみんなも先生の子供を楽しみにしていた。

その時チャイムが鳴つた。

ガラツと音を立て開いたドアから顔を出したのは担任の松永先生ではなく副担任の新井先生だった。

「松永先生は？」

とクラスの者が聞くが新井先生は顔を下に向けゆつくりと教壇に立った。

「みんなに悲しいお知らせがある……」

といつもより小さい声で言いくそうに話した新井先生に、クラスの生徒たちは良くないものを感じ黙って新井の話を聞いた。

「……松永先生がな……。流産したんだ……」

「……え」

夜明けごろ、お手洗いに行こうと階段を下りている時、足を滑らせたんだという。

すぐに病院に運ばれたが、打ち所が悪かったらしくすでに子供はお腹の中で死んでいたらしい。

（後書き）

聞いた話です。ホントかどうかは知りません。
分からないところがあつたらお聞きください。

方言を使っています。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9067m/>

ミニ物語～かごめかごめ～

2011年10月6日14時15分発行